学生と地域の協働による
茅葺きの空き家の再生・再活用

特定非営利活動法人 荻ノ島地域協議会［新潟県柏崎市］

団体設立の経緯

荻ノ島集落は、1988年から茅葺き環状集落の景観を地域資源と位置づけ、都市との交流を軸に、集落一体となってイベントや茅葺き宿の運営、景観保全などに取り組んできました。その結果、交流人口が飛躍的に増加するとともに、牧歌的な農村風景と集落ぐるみの地域づくり活動は、多くのマスコミから取材を受け、全国的にも認知度が高くなりました。

しかし、その一方で集落の高齢化が一段と進み、茅葺き屋根の補修もこれまでのように其々の世帯だけでは難しくなってきました。また人口減少から茅葺きの空き家が増え、度重なる豪雪で除雪費が嵩むことから、空き家を取り壊す事例が目立つようになっています。

このような状況を何とか打開するため、2010年度に集落の活性化を担う「荻ノ島地域協議会」を設立し、「茅葺き屋根の手入れの風景づくり」、「生活行事の復活による魅力づくり」、「交流体験プログラムの開発」、「農家の誇りの再生を目指す米・野菜プロジェクト」などの取り組みを進めて来ました。

地域概要

新潟県柏崎市荻ノ島集落は、集落の真ん中に田んぼが広がり、それらを取り囲むように環状に茅葺きの建物が残されています。人口66人（高齢化率50%）、28世帯で高齢化が進む小さな集落ですが、昔ながらの暮らしの営みが継承されています。春には庭先にゼンマイが干され、夏の緑、秋には稲を収穫する農作業の姿など季節ごとに生活の移ろいが見られます。2000年には、「美しい日本の農村景観コンテスト」で農林水産大臣賞を受賞しています。このような暮らしの風景と茅葺きが織りなす農村景観は、まさに“ニッポンのふるさと”を象徴する、荻ノ島集落の代名詞と言えるものです。荻ノ島の冬は、毎年2mを超える降雪で厳しいものですが、その分集落内での助け合い・支え合いの精神が強く残されています。

特に近年には、集落の長閑さ、懐かしさを求めてスケッチツアーやフォトツアー、散策など地域外からの来訪者が増加しています。

設立年月 ･･･2010 年 5 月 31 日
メンバー数 ･･･31 人
代表者名 ･･･ 会長　春日俊雄（かすが・としお）
連絡先 ･･･ 〒945-1512　新潟県柏崎市高柳町荻ノ島 969　☎ 0257-41-3295　a-ruga@kisnet.or.jp
団体のミッション ･･･ 私たちは、荻ノ島集落の再生産を目指し ①外部人材との連携による茅葺きの空き家再生と再活用、②再生家屋を活かした若者等の定住促進と仕事づくり、③集落のブランドづくり、に取り組み、「ニッポンのふるさと」の一つとしてその役割を担うことを目的としています。

近所の方から、スイカの差し入れがあり、猛暑にもかかわらず「思わず笑みがこぼれた正にじょんのびの一服」。

活動に至った理由や背景

これまで荻ノ島集落では、20年以上もの間、都市農村交流を中心とする地域づくり活動に取り組んできましたが、人口減少や高齢化が進む現状を踏まえ、荻ノ島地域協議会では、2011年度に「荻ノ島集落の新たな10年を目指すビジョン」を策定しました。

このビジョンが目指すものは、「集落としての再生産」です。具体的には、①外部人材との連携による茅葺きの空き家再生と再活用、②再生家屋を活かした若者等の定住の促進と仕事づくり、③集落の小さなブランドづくり、に取り組み、集落の維持・活性化に向けて動き出したところです。

2012年度から、若手大工や木工建築を学ぶ学生などを対象に、地元の建築士、木工建築の専門家等の協力を得ながら、空き家となった茅葺き家屋の修繕作業に取り組む≪茅葺き古民家ワークショップ≫プロジェクトをスタートさせました。集落の人々と参加者との交流を通じて、地域内外の新たな“結い”を構築し、茅葺きの環状集落の景観を保全していくことを目的としています。

2012年度は、3軒の空き家の実測調査および図面作成を行いました。

活動内容と成果

2014年3月現在、荻ノ島集落には8軒の茅葺きの建物と、屋根にトタンをかぶせた元茅葺きの建物が8軒あります。このうち4軒が空き家となっています。荻ノ島地域協議会では、空き家所有者の方々の協力を得て、空き家の1軒（屋号:新宅家持ち）を、茅葺きアトリエ「アート・イン・レジデンス」として、利活用を図ることとしています。

新宅家持ちは、築100年の古民家で、空き家になってから既に5年経っています。建物の主要構造体は部材が大きく損耗も比較的軽度なのですが、簡易な基礎のため、建物の傾き状況はかなり酷く、外壁、茅屋根も著しく老朽しています。

また、水回りの台所、浴室、トイレは造った時代も古く、現代の生活に合うような構造ではなく、住居としての再生利用は資金面から困難でした。そこで、若手工芸家を集落に招聘し、一定期間滞在しながら創作活動を行うとともに、その様子を見学できる場として、利活用を進めていきます。

本事業では、この新宅家持ちの改修にあたり、2012年度から連携・協力いただいている東京の芝浦工業大学との協働で修繕作業を進めました。併せて、地元の新潟工科大学とのインターンシップ事業でも取り組みました。

具体的には、夏休み期間を利用し、学生が1週間集落に滞在し、地元工務店などの指導のもと、まずは空き家の下屋部分の解体・除去作業を行いました。この下屋は、かつての近代化の時代に家族が増えて大所帯になったことから急遽増築したもので、構造的にも、景観的にも問題の多い箇所でありました。

解体・除去作業は予想以上に大変でした。原因は、各部材毎に大きな釘を何本も使って無理やり固定をしていたことでした。なんとも大工さんの仕事らしからぬ施工内容で高度成長時の遣っ付け仕事そのものでした。学生と地元の協働で悪戦苦闘しながら、学生の明るく元気なエネルギーに触発され、地元住民も大いに頑張って充実した活動となりました。

改修前の新宅家持ち

新宅家持ち修繕ワークショップ開催概要

参加者:36名

7/29（月）	7/30（火）	7/31（水）	8/1（木）	8/2（金）	8/3（土）	8/4（日）
○ワークショップガイダンス及び新宅家持ち現況調査	新宅家持ちのガイダンス ○茅葺き民家の構造についての解説、作業方針の説明 ○旧風呂場、台所内部解体作業 ○雁木ビデ足場掛け及び下屋解体作業	○前中門ビデ足場掛け及び下屋解体作業 ○ニワ屋内床板解体及び一部根太解体作業	○座敷床板・トイレ・物置等内部解体作業 ○前中門下屋解体作業	○前中門下屋解体作業 ○裏中門トタン屋根解体作業	○前中門下屋解体作業 ○裏中門トタン屋根解体作業	○前中門ブルーシート養生作業 ○裏中門解体作業

学びながら、楽しみながら、茅葺きの家を修復する。

学生との協働による茅葺き古民家修繕ワークショップ

茅葺き古民家の解説

元棟梁の方から「カギマヤ中門づくり」の特徴について、具体的に建物の部位を示しながら解説をしてもらいました。

差しづくりの構造や部屋の配置、昔の大工は、使う場所を見極めて山から木を伐り出したこと、上部からの荷重のかかる場所については、弓なりの木を用いて対応したこと、桁から下の仕事は大工さん、桁から上の仕事は集落の住民が担当したこと、などに関心や質問が寄せられました。

最後は、本屋の屋根裏（ソラ）にみんなで上り小屋裏の構造を学びました。

※所感　解体が予想以上に難渋し、全体の進捗が予定通りに進みませんでした。学生が初めて解体作業を行ったため、関心をもって精力的に取り組んでくれましたが、技術の面で対応できなかったところが多々見られました。また、古釘を3人が踏んでしまいました。

茅葺き古民家の解体作業

○床板の解体

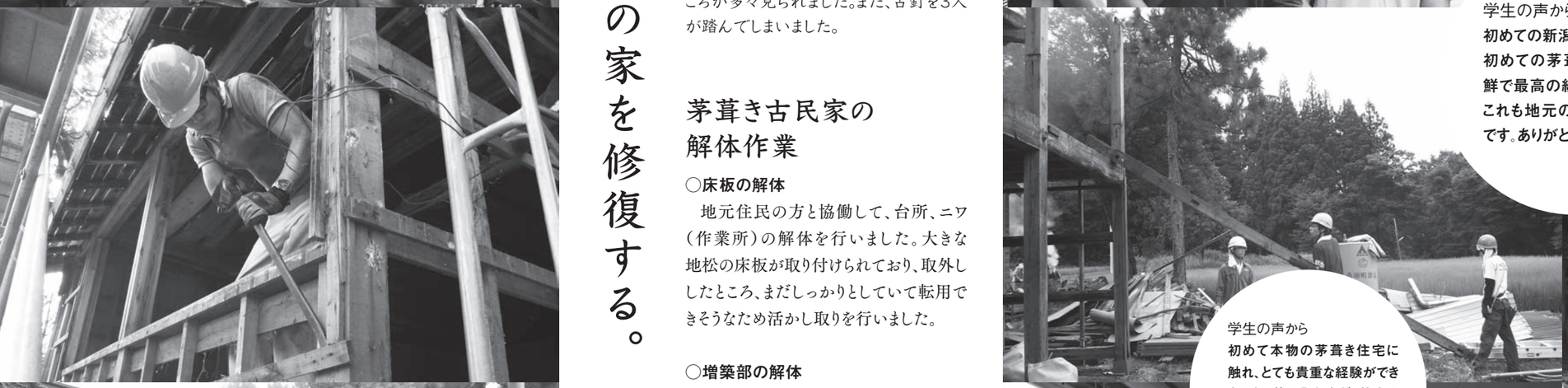
地元住民の方と協働して、台所、ニワ（作業所）の解体を行いました。大きな地松の床板が取り付けられており、取外ししたところ、まだしっかりとしていて転用できそうなため活かし取りを行いました。

○増築部の解体

解体作業については、地元の元棟梁の方からアドバイスを受けながら、足場の設置、外壁取外し、トタン屋根の除去、垂木、柱の除去と進めていきました。解体は、学生にも関心が高く、難関部分の作業では、元棟梁の助言に加えて参加者が協議をしながらアイデアを出し合うなど大いに盛り上がりました。

学生の声から
茅葺きの家の解体作業というとても貴重な体験ができました。みんなでドロだらけになりながらの作業も良い経験となりました。じゃがいも、おいしかったです。ありがとうございました。

学生の声から
茅葺きという貴重な建物の実測や解体という作業が体験できて、感動しました。



学生の声から
初めての新潟、初めての解体、初めての茅葺き、すべてが新鮮で最高の経験になりました。これも地元の皆さんのおかげです。ありがとうございました。

学生の声から
初めて本物の茅葺き住宅に触れ、とても貴重な経験ができました。差し入れなど、皆さんの優しさが嬉しかったです。ありがとうございました。

空き家再生後の活用を担う「グルグルハウス」と新潟工科専門学校インテリアデザイン科の学生との室内プランづくりのミーティング。2014年内に集落の方々へのプレゼンを予定。

地元住民と職員との連携による基礎改修

夏のワークショップでは、下屋や裏中門の解体作業に大幅に時間がかかり、建物の構造を支える「さす」や「はり」の補強や基礎改修作業に着手することができませんでした。このため、残された作業については、専門技術が求められる部分は職人の協力を得て、その他は荻ノ島地域協議会で対応し、修繕作業を継続して取り組みました。

修繕ワークショップ等の成果

夏における一週間の修繕ワークショップ、さらにその後も職人の協力を得ながら荻ノ島地域協議会のメンバーで解体、基礎改修作業を行ったことで、年度内に予定していた修繕作業が終わったことが何よりもの成果と言えます。

ただ、実際に「アート・イン・レジデンス」として空き家を甦らせるためには、建物内部の設計やデザイン、必要な設備・備品などを取りそろえていかなければならないため、2014年度も継続的に活動を行っていく予定です。

また、修繕ワークショップを通じて1週間の間、若い大学生達が荻ノ島集落に滞在して茅葺きの空き家の修繕作業を行いました。これだけの期間若者が集落で活動することは、集落の人たちにとっては新鮮に映り、それだけで集落が明るくなるなどの意見が挙げられました。

外から来た学生達が地元の人たちと一緒に汗を流しながら協働で修繕作業を行ったことで話題性を生み、マスコミにも多く取り上げられ、荻ノ島の茅葺きの空き家修繕および集落景観の保全活動のPRとしては、非常に大きな効果がありました。

「アート・イン・レジデンス」を運営する予定のアーティスト今井伸治氏の声

高柳でのアート活動は5年目に、荻の島での関わりでは3年になります。アートの力で人と人を継ぎ、集える場を作るという想いはますます強くなってきています。

10年を一区切りと考えてきましたのでちょうど中盤に差し掛かった所です。序盤の基礎作り段階から人を集める中盤の仕事になって来ています。

試金石に、昨年10月から冬の厳しい時期に、1人の作家に滞在制作を依頼しました。空き家をアトリエ利用して公開制作してもらいました。

そして、成果を高柳滞在制作展として発表しました。志のある若者が1人来るだけで多くの局面が産み出される事がわかりました。この体験を通してお互いが可能性を感じられたと思っています。

現在、空き家をアトリエとギャラリーを兼ねたスペースに改装して複数のアーティストを受け入れる準備を始めました。

荻の島の茅葺き屋（新宅家持ち）の修復、改装にはまだまだ時間が必要ですが、重要なポジションにあると思っています。

荻の島の時間や空気を、じっくりと感じ過ごせるスペースになれば良いと思っています。

今後の予定

(1) 作業スケジュール

2014年度からは、県内の建築系専門学校と荻ノ島地域協議会が連携協定を締結することとなり、新宅家持ちについては「アート・イン・レジデンス」として改修していくための設計を協力して実施することが決まっています。専門教諭の指導のもと、集落側の意向を踏まえて、学生さんから色々な提案をしていただけることが楽しみです。

2015年度は、いよいよ「アート・イン・レジデンス」としての完成を迎える年となります。2012年度に作成した図面をもとに、再び外部のさまざまな協力を得ながら、茅葺き古民家修繕ワークショップを開催していくこととします。

既に若手工芸家を支援する団体が「アート・イン・レジデンス」を運営することが決まっているほか、若手工芸家の需要も見込まれます。このため荻ノ島地域協議会としては、計画通り古民家の改修が進むよう努力していきたいと考えています。

(2) 資金調達

一方で、改修にあたっての資金調達が大きな課題となっています。特に古民家の場合、規格どおりの住宅を建てるのとは異なり、実際に手を入れてみて初めて、修繕が必要な個所が見えてくるという側面があります。なかなか事前の計画通りに進まないのが古民家再生の常です。このため多少余裕を持った予算確保が必要となります。

資金調達にあたっては、荻ノ島集落では、これまで20年間の地域づくり活動のなかで全国の様々な著名人、地域・個人とのつながりを育んできました。このようなネットワークを活用しつつ、クラウドファンディングなどの仕組みも併せて活用していきたいと考えています。特にクラウドファンディングは、寄付という行為もさることながら、様々な人が目にすることで、荻ノ島集落のPRにもつながります。また、寄付金のお返しに集落の米や野菜を発送することで地域内の経済循環にもつながるとともに、そこで生まれる交流から、新たな荻ノ島集落のファンづくりへとつなげていければと思います。